

## H26 シカ年度隣接地区エゾシカ捕獲結果（林野庁）

### 1. ウトロ地区

#### <概要>

- ・平成 25 年度にウトロキャンプ場に設置した囲いワナに加えて、フンベ川（ウトロ下水処理場裏）にも新たに囲いワナを設置し捕獲を実施。

#### <結果>

##### 1) ウトロキャンプ場 囲いワナ（2年目）

- ・誘引効果の向上を図るため、ウトロ市街地防鹿熊柵の外側に囲い部を増設。25 年度と同様に自動捕獲装置（センサー式）を使用。
- ・餌付け誘引は、1月9日～3月18日までに31回。
- ・囲いワナ稼働期間は、2月12日～3月18日の35日間。
- ・捕獲数は17頭（オス成獣1頭、メス成獣7頭、0歳9頭）。
- ・捕獲回数は3回で、1回当たりの捕獲数は3～9頭（平均5.7頭）。

実施工程表(ウトロキャンプ場)

項目	12月		1月			2月			3月		備 考
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
囲いワナ増設						→					2月5日～2月9日
餌付け誘引					市街地柵の外	→			→		1月 9日～2月 9日(32日間)の内8回 2月10日～3月18日(37日間)の内23回
捕獲・搬出									→		捕獲 2月12日～3月18日(35日間) 停止 2月17～21日(5日間)

##### 2) フンベ川 囲いワナ（1年目）

- ・遠隔操作（有線：約 250m）による電動ウインチ式ゲート（自動車電源）を使用。
- ・餌付け誘引は、1月10日～3月16日まで23回。
- ・囲いワナ稼働期間は、2月8日～3月18日の39日間。
- ・捕獲数は19頭（オス成獣9頭、メス成獣10頭、0歳0頭）。
- ・捕獲回数は7回で、1回当たりの捕獲数は1～6頭（平均2.7頭）。

実施工程表(フンベ川)

項目	12月		1月			2月			3月		備 考
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
囲いワナ新設					→						1月26日～2月4日
餌付け誘引									→		1月10日～3月16日(66日間)の内23回
捕獲・搬出									→		捕獲2月8日～3月18日(39日間)

#### <捕獲効率>

- 1) ウトロキャンプ場については、前年に比べ捕獲数は半減（35頭⇒17頭）した。  
これは、暴風雪の影響による囲いワナ増設の遅れにより、囲いワナの稼働期間が短くなったためであり、稼働一日あたりの捕獲数については0.63頭⇒0.57頭と前年度との差は見られなかった。このエリアは警戒心の高い集団が捕獲対象となっていることから、ウトロ市街地防鹿熊柵の外側に囲い部を増設したことが一定の効果を発揮したと考えられる。
- 2) フンベ川については、稼働一日あたりの捕獲頭数は0.49頭であった。  
捕獲扉の閉鎖作業を遠隔操作により実施したが、囲いワナへのエゾシカの侵入時刻と作業者の捕獲待機時刻のズレ（空振りや捕獲機会の逸失）が多く、捕獲を試みるまでにワナに通った回数が49回に達した。

#### <まとめ>

- 1) ウトロ地区の捕獲実績 36頭。目標捕獲数は200頭（未達成）
- 2) ウトロキャンプ場での捕獲は、1年目と同様に、ワナ前まで誘引されてもワナ内部に侵入することを極端に忌避する状況が多く見られた。請負捕獲事業終了直後の3月後半にワナ近くで42頭が目撃されるなど捕獲対象となる個体がさらにいることから、次年度に向けては、時間をかけて十分馴化させつつ1月後半にはワナを稼働させることが必要。  
あわせて、警戒心を緩和するために標識を付け放逐する囲シカの導入も検討する。
- 3) フンベ川では捕獲期間後半にワナへの侵入を忌避する個体が多くなる傾向が見られたことに加え、無雪期には近隣農地周辺において斜里町による有害駆除が行われていることから、時間をかけて十分馴化させるなどといった工夫が必要。

## 2. 遠音別地区

#### <概要>

- ・オシンコシン滝近くに新設した囲いワナでの捕獲、オベケプ林道等でのモバイルカリング、巻き狩り、林道除雪による一般狩猟支援を実施。

#### <結果>

- 1) オシンコシン崎 囲いワナ（1年目）
  - ・遠隔操作（有線：約250m）による電動ウインチ式ゲート（自動車電源）を使用。
  - ・餌付け誘引は、12月25日～3月13日まで27回。
  - ・囲いワナ稼働期間は、1月21日～3月18日までの57日間。

- ・捕獲数は41頭（オス成獣16頭、メス成獣15頭、0歳10頭）。
- ・捕獲回数は13回で、1回当たりの捕獲数は2~6頭（平均3.2頭）。

実施工程表(オシンコシン崎)

項目	12月		1月			2月			3月		備考
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
囲いワナ新設			→								12月26日～1月21日
餌付け誘引						→					12月25日～3月13日(79日間)の内27回
捕獲・搬出											捕獲1月21日～3月18日(57日間)

#### 2) オペケブ林道等モバイルカリング（1年目）

- ・実施路線は2路線、延長は約2.5km、誘引エサ場は8箇所設定。
- ・ヘイキューブによる誘引を、3月7日～3月24日までに15回実施（実施者2名・記録1名の3名体制）。餌は当日の日没までに食べきる量を想定して朝7時頃までに散布。
- ・モバイルカリングは、3月14日（14～16時）と3月24日（15～17時）の2回（運転手1名・射手2名・記録1名の4名体制×2班）。ピックアップトラックの荷台等から発砲。
- ・捕獲数は合計7頭（オス成獣0頭、メス成獣5頭、0歳2頭）。
- ・1回当たりの捕獲数は3～4頭（平均3.5頭）

#### 3) オペケブ 巻き狩り

- ・国道334号線から約1キロ内陸の南斜面（針広混交林）で3月21日に実施。
- ・17名（射手14、補助員2、記録員1）の体制で実施。
- ・捕獲数は0頭。

実施工程表(オペケブ林道外)

項目	1月			2月			3月			備考	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
一般狩猟支援除雪等	→			→						→	狩猟期間中8回 モバイルカリング除雪2回
餌付け誘引										→	3月7日～3月24日(18日間)の内15回 林道上8箇所
捕獲・搬出									→	→	モバイルカリング3月14日、24日(2日間) 巻狩り3月21日(7:00～10:00)

#### 4) 一般狩猟支援の除雪

- ・オペケブ林道等2路線（延長約2.5km）について、12月から2月までに除雪を8回実施。
- ・地元猟友会会員による捕獲数は54頭（聞き取り）。

#### <捕獲効率>

- 1) オシンコシン崎でのワナ稼動一日あたりの捕獲数は0.72頭であった。また、捕獲扉の閉鎖作業を遠隔操作により実施したが、囲いワナへのエゾシカの侵入時刻と作

業者の捕獲待機時刻のズレ（空振りや捕獲機会の逸失）が多く、捕獲を試みるまでにワナに通った回数が 34 回に達した。

さらに、アクセス道路の除雪延長が長い（約 2 キロ）ことや道路傾斜が強いことが車両通行に支障を来し、捕獲ができないケースもあった。

- 2) モバイルカリングはわずか 4 時間の実施であったが、参考までに射手待機時間あたりのシカ捕獲数を算出すると 0.4 頭となった。

#### <まとめ>

- 1) 遠音別地区捕獲実績は 48 頭。目標捕獲数は 210 頭（未達成）
- 2) オシンコシン崎周辺は高密度生息地であるにも関わらず、囲いワナでの捕獲数は伸びなかった。その理由としては、ワナ設置場所は保護区とはいえ可猟区に細長く食い込んだ形となっているため、警戒心の非常に強い集団となっていたこと、さらにはワナの部材が当初不完全であり、その補修に時間を要したことが考えられる。

今後は、誘引に時間をかけて十分馴化させるなどといった工夫が必要であるが、交流電源の使用できる場所にワナを増設して効率良い捕獲体制を作ることも必要。

- 2) モバイルカリングについては、発注者も受注者も初めての経験であることに加え、実質捕獲作業時間が 4 時間しかないなど試験的实施にとどまった。

誘引については、可猟期間終了後に開始し、およそ 4 日目から餌場にシカが出没するようになった（別紙）。餌場により差はあるものの、総じて始めは夜間の採食が多く、徐々に昼間の採食が多くなる傾向が見られた。また、餌量を当日日没までに食べきる量とすることはなかなか難しかった。

また、可猟期間終了と年度替わりの間の実質 3 週間しか事業期間を確保できず、十分な誘引期間を確保することができなかった。

なお、大雪により道路脇の雪壁が高くなり視界が遮られたため、今後は除雪に工夫が必要である。

- 3) 巻狩り箇所は地元猟友会が例年巻き狩りを実施してきた箇所としたが、目撃頭数も 4 頭しかなく（発砲は 1 回のみ）、実施箇所の設定が適切ではなかったと言える。25 年度からオペケブ林道の除雪を開始してこの周辺へのハンター立ち入りを容易にしてきたことがシカの集結状況を変えた可能性もあることから、真鯉地区も含めて複数の巻き狩り候補地をあらかじめ確保しておくことにより、その年々で最適な場所を選択できるようにする必要がある。

### 3. 真鯉地区

#### <概要>

- ・マコイ沢に新設した囲いワナ及び金山川沿いに設置した箱ワナで捕獲を実施。

<結果>

1) マコイ沢 囲いワナ (1年目)

- ・遠隔操作 (有線: 約 150m) による電動ウインチゲート (自動車電源) を使用。
- ・餌付け誘引は、3月1日～3月17日までの17日間。
- ・囲いワナ稼働期間は、3月7日～3月18日までの12日間。
- ・捕獲数は0頭

実施工程表(マコイ沢外)

項目	1月			2月			3月			備考
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
囲いワナ新設					→					2月20日～2月25日(箱ワナ1日)
餌付け誘引							→			3月1日～3月17日(17日間)
捕獲・搬出							→			捕獲3月7日～3月18日(12日間)

2) 金山川 箱ワナ (1年目)

- ・折りたたみ方式のメッシュワイヤー (φ5mm・編目100mm角) 製の箱ワナ (W0.9×L1.8×H1.5m) を420mの区間に3基設置し、ワナ内の釣り糸に触れると捕獲扉が落ちる方式で捕獲を実施。
- ・餌付け誘引は3月1日～3月17日までの17日間
- ・箱ワナ稼働期間は、3月7日～3月18日までの12日間。
- ・捕獲数は2頭 (オス成獣2頭、メス成獣0頭、0歳0頭)
- ・捕獲回数は1回。

3) 金山川等 巻き狩り

- ・国道334号線から200～700mほど内陸に入った針広混交林にて3月21日に実施。金山川及び隣接するオシャマツ川の両河川沿いに射手を配置し、勢子が稜線沿いからシカを沢に向かって追いだす形で実施。
- ・巻き狩りは18名 (射手15、補助員2、記録員1) の体制で実施。
- ・捕獲数は27頭 (オス成獣3頭、メス成獣19頭、0歳3頭、不明2)

実施工程表(金山川外)

項目	1月			2月			3月			備考
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
箱ワナ新設					→					2月20日～2月25日(箱ワナ1日)
箱ワナ餌付け誘引							→			3月1日～3月17日(17日間)
箱ワナ捕獲・搬出							→			捕獲3月7日～3月18日(12日間)
巻き狩り捕獲・搬出									▶	巻き狩り3月21日(10:30～14:30)

<捕獲効率>

- 1) 箱ワナの稼働一日あたり捕獲数は、一台あたり0.06頭であった。
- 2) 巻き狩りの動員射手数あたり捕獲数を算出すると、1人あたり1.8頭となり、捕獲効率は比較的良かったと考えられる。ただし、捕獲後の搬出に約3時間を要した。

<まとめ>

- 1) 真鯉地区捕獲実績は29頭。**目標捕獲数は30頭(未達成)**
- 2) マコイ沢での囲いワナ捕獲については、2月末まで一般狩猟が行われていた可猟区内で実施していることから警戒心が非常に高い地域であることに加え、3月初めに記録的な暴風雪にも遭い、ワナ脇までの誘引に10日間程かかり、結局、事業期間内にワナ内に誘引することができなかった。今後は、誘引効果の高い餌の使用、年度替りにより捕獲が中断することを避けるために林野庁職員による捕獲作業実施などといった検討も必要である。
- 3) 箱ワナは、積雪等により釣り糸が切れ捕獲扉が動かない状況が頻繁に見られた。  
また、開けた場所に設置したことから、雪解けが進むと箱ワナが周囲から丸見えとなったことも、捕獲効果が上がらなかった原因の一つと考えられ、対策が必要である。さらに、積雪や強風に耐えられる寒冷地に適した箱ワナ等の導入も検討する。
- 4) 巻狩りについては、1月の猟友会による巻き狩り(一般狩猟)では目撃すらないという状況であったため、より多くのシカの出現を期待できる3月後半に実施したことは正解であった。巻き狩り実施の翌週にも数十頭のシカがほぼ同じ箇所を確認されており、継続的な実施を検討する必要がある。  
なお、捕獲個体の搬出を円滑に行うため、車両の待機スペースの確保(除雪)、スノーモビル使用等も検討する必要がある。